

高四小エリア

令和7年10月 8日

特別支援教室の便利

10月号

杉並区立高井戸第四小学校

特別支援教室拠点校

たかし教室直通03-5336-9522

今年の夏は猛暑の日が続き、残暑も厳しい毎日でした。10月になり涼しい風が吹き始め、秋の気配が感じられるようになってきました。秋は「読書の秋」、「勉強の秋」、「スポーツの秋」、「芸術の秋」と言われ、学びの季節です。過ごしやすいこの時期に、何かにじっくり取り組む時間を作っていきたいものです。

個人面談ご協力ありがとうございました

8月25日(月)～9月3日(水)まで個人面談が行われました。お忙しい中、お越しいただきありがとうございました。ご家庭との情報共有を十分に行うことができました。お話し合いしたことを児童の今後の支援に生かしていきたいと思えます。

2学期の指導日について

各校特別支援教室の指導日については、9月にお配りした「令和7年度2学期指導日のお知らせ」でご確認ください。ご不明な点がございましたら、各校の専門員か特別支援教室担任にお問い合わせください。予定の変更、追加等は、その都度お知らせいたします。

子どものやる気を出すには



子どものやる気を引き出すにはどうしたらよいのかを考えてみたいと思います。子どもは自ら進んでなかなか行動しない時に、あれしなさい、これしなさいと言われないと行動を起こさないことがあります。また、子どもが行動を起こしたとしても集中力が続かず、すぐに飽きてしまうこともあります。子どものやる気を引き出すための子どもへのアプローチの仕方にはどのような方法があるか紹介したいと思います。

①学びやすい環境づくり

子どもがやる気を出すためには、物事に集中できる環境が必要です。勉強をするのであればゲームやスマートフォンなどがなく、勉強に集中できる環境が望ましいです。部屋の整理整頓を一緒にするのもよいと思います。

②達成しやすい小さな目標設定から

最初から大きな目標を設定し、その目標を達成しようというモチベーションを維持することは難しいです。子どもが理解でき、達成しやすい小さな目標設定から始める方が良いでしょう。小さな目標の達成という成功体験の積み重ねが大きな目標設定につながると思います。

③叱らずに褒める

なかなかやる気が出ない子どもに対して、どうしても注意をしてしまいがちです。しかし、子どもを注意すると、子どものやる気を引き出すためには逆効果になってしまうこともあります。そのため、やらないことを叱るのではなく、できたことを褒めると良いです。

④失敗があってもよいことを教える

子どもは失敗することを恥ずかしがったり、嫌がったりします。子どもにはまず失敗してもよいということを教えて安心させる必要があります。また、失敗したときのサポートも大切です。失敗を恐れず、いろいろなことにやる気を出して挑戦してほしいです。

特別支援教室でも、上記のようなやる気を引き出すためのアプローチに心掛け、一人一人の子どもたちを支援しています。子どもたちの気持ちに寄り添い、やる気を引き出すような活動の工夫、支援の仕方を日々考えています。子どもたちのできることを増やしていけるようにしたいと思います。

10月の学習予定

◎小集団学習「みんなの時間」

「文字ことばづくりをしよう」

- ・ひらがなやカタカナを使って言葉をつくることができる。
- ・ルールを理解して活動に取り組むことができる。
- ・友達と協力して活動することができる。

「そっとおやすみ」

- ・ルールを意識して抑制できるようにする。
- ・状況に合わせた注意を持続させる態度を養う。
- ・小集団という場や相手の状況に応じて主体的にコミュニケーションを展開する。

「自分を表現すること、相手の意図を想像すること、いろいろな解釈があること」

コミュニケーションゲームを通して、

- ・自分の考えや思いを表現しようとすることができる。
- ・他の人の考えや意図を想像しようとすることができる。
- ・関わりを楽しみながら、人によっていろいろな解釈の仕方があることを知る。

「工作(こうさく) ～ゼンマイカーをつくろう～」

- ・仕上りをイメージして、制作活動に取り組む。
- ・接着剤を使って、材料を丁寧に貼り付ける。
- ・完成させた作品を友達と見せ合ったり動かしたりし、お互いの作品の良さを見付ける。